

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-333967

(43) 公開日 平成10年(1998)12月18日

(51) Int.Cl.⁶
G 0 6 F 12/00
9/445
13/00
識別記号
5 4 5
3 5 1

F I
G 0 6 F 12/00
13/00
9/06
5 4 5 Z
3 5 1 E
4 2 0 J

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願平9-345211

(22) 出願日 平成9年(1997)12月15日

(31) 優先権主張番号 特願平9-85281

(32) 優先日 平9(1997)4月3日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都渋谷区本町1丁目6番2号

(72) 発明者 鈴木 秀夫

東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ

計算機株式会社羽村技術センター内

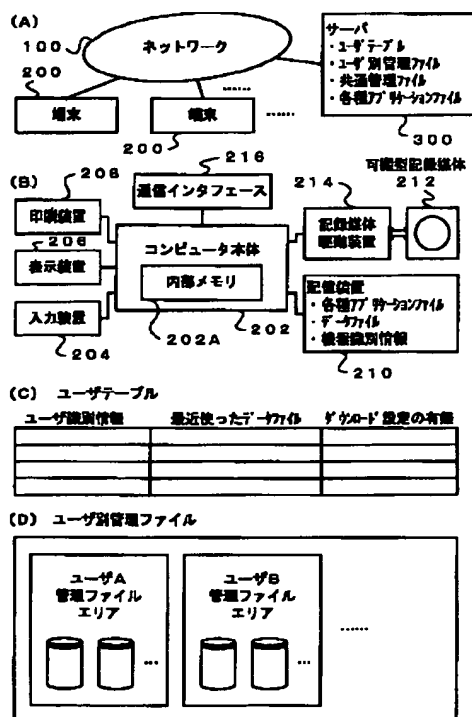
(74) 代理人 弁理士 鈴江 武彦 (外5名)

(54) 【発明の名称】 ネットワーク端末装置及び記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 ユーザが必要ファイルをホスト装置から毎回ダウンロードする作業を不要にすること。

【解決手段】 ネットワーク端末装置200において、コンピュータ本体202は、当該端末装置200の立ち上げ起動時に、ユーザ固有のユーザ識別情報によるダウンロード要求を、通信インタフェース216を介して、ネットワーク100上のホスト装置300に対して伝達する。ホスト装置300では、このダウンロード要求に応じて、上記ユーザ識別情報によって識別されたユーザ対応の各種ファイルのうち、予めユーザテーブルによってダウンロード設定されていた指定ファイルを、各ユーザ対応の各種ファイルを保存するユーザ別管理ファイルから選択して、上記要求のあったネットワーク端末装置200に対して転送する。この場合、指定ファイルは、最近使用したデータファイルである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数のユーザー識別情報に対応して複数のファイルを記憶した所定のホスト装置とは通信回線を介して通信接続されるネットワーク端末装置であって、ユーザーを識別するユーザー識別情報を上記ホスト装置に対して上記通信回線を介して通知する通知手段と、上記通知に応じて上記ホスト装置側において上記ユーザー識別情報に基づいて抽出されたファイルの送信を上記通信回線を介して受信する受信手段と、上記ホスト装置より送信されて上記通信回線を介して上記受信手段により受信されたファイルを当該データ処理装置内の記憶手段に保存記憶すべく制御する記憶制御手段と、を具備したことを特徴とするネットワーク端末装置。

【請求項2】 上記通知手段は、当該ネットワーク端末装置の立ち上げ起動時に上記ユーザー識別情報を上記ホスト装置に対して通知する手段を含む請求項1に記載のネットワーク端末装置。

【請求項3】 上記受信手段は、上記ホスト装置側において上記ユーザー識別情報で特定される複数のファイルの中から抽出されたファイルの送信を受信する手段を含む請求項1に記載のネットワーク端末装置。

【請求項4】 所定のホスト装置とは通信回線を介して通信接続されるネットワーク端末装置であって、当該ネットワーク端末装置あるいは上記ホスト装置に具備されたタイマー起動手段からの起動指令により当該ネットワーク端末装置を動作させる動作手段と、上記ホスト装置側から予め設定されていたファイルの送信を上記通信回線を介して受信する受信手段と、上記ホスト装置より送信されて上記通信回線を介して上記受信手段により受信されたファイルを当該データ処理装置内の記憶手段に保存記憶すべく制御する記憶制御手段と、上記記憶制御手段による送信ファイルの保存記憶の一連の処理の終了により当該ネットワーク端末装置の動作を停止させる停止手段と、を具備したことを特徴とするネットワーク端末装置。

【請求項5】 上記受信手段は、当該ネットワーク端末装置を利用するユーザー識別情報に対応する複数のファイルの中から上記ホスト装置側において抽出されたファイルの送信を受信する手段を含む請求項3に記載のネットワーク端末装置。

【請求項6】 所定のホスト装置とは通信回線を介して通信接続されるネットワーク端末装置であって、現在時刻を計時する計時手段と、新規ファイルの送信を上記通信回線を介して上記ホスト装置に対して要求する要求手段と、上記ホスト装置側から現在時刻に対応して抽出されたファイルの送信を上記通信回線を介して受信する受信手段と、

上記ホスト装置より送信されて上記通信回線を介して上記受信手段により受信されたファイルを当該データ処理装置内の記憶手段に保存記憶すべく制御する記憶制御手段と、

を具備したことを特徴とするネットワーク端末装置。

【請求項7】 複数の時間帯別にその各時間帯で当該ネットワーク端末装置に保存記憶すべきファイルを特定するためのファイル指定情報を記憶する時間帯別記憶手段と、現在時刻に対応した時間帯に対応したファイル指定情報を上記ホスト装置に対して通知する通知手段と、を更に具備した請求項5に記載のネットワーク端末装置。

【請求項8】 上記時間帯別記憶手段は、各時間帯で不要となるファイルを特定するためのファイル指定情報を記憶する手段を含み、不要となったファイルを上記記憶手段から削除する削除手段と、を更に具備した請求項5に記載のネットワーク端末装置。

【請求項9】 コンピュータが実行可能なプログラムを格納した記憶媒体であって、ユーザーを識別するユーザー識別情報をホスト装置に対して通信回線を介して通知させるためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、上記通知に応じて上記ホスト装置側において上記ユーザー識別情報に基づいて抽出されたファイルの送信を上記通信回線を介して受信させるためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、上記ホスト装置より送信されて上記通信回線を介して受信されたファイルを記憶手段に保存記憶させるためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、を含むプログラムを格納したことを特徴とする記憶媒体。

【請求項10】 コンピュータが実行可能なプログラムを格納した記憶媒体であって、現在時刻を計時させるためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、新規ファイルの送信を上記通信回線を介して上記ホスト装置に対して要求させるためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、上記ホスト装置側から現在時刻に対応して抽出されたファイルの送信を上記通信回線を介して受信させるためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、上記ホスト装置より送信されて上記通信回線を介して上記受信手段により受信されたファイルを当該データ処理装置内の記憶手段に保存記憶すべく制御させるためのコンピュータが実行可能なプログラムコードと、を含むプログラムを格納したことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ネットワーク上においてホスト装置とネットワーク端末装置とが連結され

るネットワークシステム、及びそのようなネットワークシステムにおけるネットワーク端末装置及びホスト装置の動作をコンピュータに実行させる命令を含むプログラムを格納したコンピュータが読み取り可能な記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、ローカルエリアネットワーク（LAN）やイントラネット、インターネット等のネットワークにパーソナルコンピュータ（PC）を接続して、情報を共有したり、互いに授受することが行われるようになってきている。

【0003】このようなネットワークに接続された端末装置としては、PCは安価なものとはいえ、そこで近年、必要となしに必要な情報（アプリケーションプログラムファイルやデータファイル）のみをネットワーク上のサーバ等のホスト装置から転送（ダウンロード）して使用することで、ハードディスク等の資源の簡略化を図り、安価としたネットワークPCが利用され始めようとしている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このようなネットワークPCでは、適宜必要となる度に、必要なアプリケーションファイルやデータファイルをダウンロードする形態となっているので、ユーザが、毎日、同じアプリケーションファイルやデータファイルを使用するとしても、毎日それらをダウンロードしなければならず、ユーザが処理を行い得る状態となるまでに、非常に面倒な作業が必要であった。

【0005】本発明の課題は、ユーザが必要ファイルをホスト装置から毎回ダウンロードする作業を不要にすることである。本発明の別の課題は、どのファイルをダウンロードするのかをユーザが設定するといった作業を不要にすることである。

【0006】本発明のさらに別の課題は、ネットワーク端末装置起動後に直ちに処理を行うことができるようにすることである。本発明の他の課題は、必要とするデータファイルあるいはアプリケーションを、必要とする時間帯で確実に使用できるようにすることである。本発明の別の課題は、データファイルに対するアクセスも直ちに可能となるようにすることである。

【0007】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明の手段は次の通りである。複数のユーザー識別情報に対応して複数のファイルを記憶した所定のホスト装置とは通信回線を介して通信接続されるネットワーク端末装置であって、ユーザーを識別するユーザー識別情報を上記ホスト装置に対して上記通信回線を介して通知する通知手段と、上記通知に応じて上記ホスト装置側において上記ユーザー識別情報に基づいて抽出されたファイルの送信を上記通信回線を介して受信する受信手段と、上記ホスト

装置より送信されて上記通信回線を介して上記受信手段により受信されたファイルを当該データ処理装置内の記憶手段に保存記憶すべく制御する記憶制御手段と、を具備したことを特徴とする。

【0008】請求項4の発明の手段は次の通りである。所定のホスト装置とは通信回線を介して通信接続されるネットワーク端末装置であって、当該ネットワーク端末装置あるいは上記ホスト装置に具備されたタイマー起動手段からの起動指令により当該ネットワーク端末装置を動作させる動作手段と、上記ホスト装置側から予め設定されていたファイルの送信を上記通信回線を介して受信する受信手段と、上記ホスト装置より送信されて上記通信回線を介して上記受信手段により受信されたファイルを当該データ処理装置内の記憶手段に保存記憶すべく制御する記憶制御手段と、上記記憶制御手段による送信ファイルの保存記憶の一連の処理の終了により当該ネットワーク端末装置の動作を停止させる停止手段と、を具備したことを特徴とする。

【0009】請求項6の発明の手段は次の通りである。所定のホスト装置とは通信回線を介して通信接続されるネットワーク端末装置であって、現在時刻を計時する計時手段と、新規ファイルの送信を上記通信回線を介して上記ホスト装置に対して要求する要求手段と、上記ホスト装置側から現在時刻に対応して抽出されたファイルの送信を上記通信回線を介して受信する受信手段と、上記ホスト装置より送信されて上記通信回線を介して上記受信手段により受信されたファイルを当該データ処理装置内の記憶手段に保存記憶すべく制御する記憶制御手段と、を具備したことを特徴とする。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図1の（A）乃至図7を参照して説明する。図1の（A）は本発明の第1の実施の形態のネットワークシステムの構成を示す図で、ネットワーク100を介して、複数のネットワーク端末装置200がホスト装置としてのサーバ300に連結されている。

【0011】ここで、各端末装置200は、ネットワークパーソナルコンピュータ（PC）であり、例えば図1の（B）に示すような構成のものである。即ち、同図において、参照番号202は全体を制御するコンピュータ本体である。204はキーボードやマウス等の入力装置であり、206はCRT等の表示装置、208はプリンタ等の印刷装置である。210は、オペレーティングシステム（OS）、当該端末装置を識別するための機器識別情報、各種アプリケーションファイルやデータファイル、後述するような初期ダウンロード処理のプログラム等の情報を記憶するハードディスク（HD）等の記憶装置である。

【0012】ここで、上記コンピュータ本体202は、この記憶装置210に記憶されたプログラムを実行する

際のワークメモリとして用いるための内部メモリ202Aを有しており、該内部メモリ202Aには、上記プログラムやその他の情報が展開される。

【0013】なお、記憶装置210としてはあまり大容量のものは使われておらず、よって、上記記憶装置210に記憶される情報のうち、OSやダウンロード処理等の情報のみが、フロッピーディスク(FD)やCD-ROM等の可搬型記録媒体212に記憶されているものを記録媒体駆動装置214にて読み出して、または通信インタフェース216を介してネットワーク100上のサーバ300から供給されて、予め格納されているものであり、その他のアプリケーションファイルやデータファイルは、必要に応じてサーバ300からダウンロードして記憶するようになっている。

【0014】一方、サーバ300は、記憶装置として大容量のものが使用され、そこに、ユーザテーブル、ユーザ別管理ファイル、共通管理ファイル、各種アプリケーションファイル等が保存されている。また、OSや各端末装置200からのダウンロード要求に応じた処理等のプログラム等を予め記憶、あるいは可搬型記録媒体から読み出して記憶している。その他の構成については、端末装置200と同様である。

【0015】図1の(C)は、サーバ300に構成されたユーザテーブルを示す図で、このテーブルは、パスワード等のユーザ識別情報に対応させて、当該ユーザが最近使用したデータファイル(例えば10個)を示す情報が適宜書き換え記憶されると共に、端末装置200側からユーザによって任意に設定される当該データファイルのダウンロードを行うか否かを示すダウンロード設定有無フラグを記憶するものである。

【0016】また、同様にサーバ300に構成されたユーザ管理ファイルは、図1の(D)に示すように、各ユーザ毎に管理ファイルエリアが設定されて、各ユーザが使用したデータファイルの実体や、メール情報やスケジュール情報等の個人的な情報を記憶している。

【0017】次に、このような構成における動作を説明する。図2は、ネットワーク端末装置200のコンピュータ本体202によって実行される初期ダウンロード処理のフローチャートであり、図3は、これに応じたサーバ300の動作フローチャートを示している。

【0018】即ち、当該ネットワーク端末装置200の電源がオンされると、まず、OSが起動されて(ステップS201)、初期画面を表示装置に表示する(ステップS202)。そして、入力装置204によるパスワード等のユーザ識別情報の入力待ちとなる(ステップS203)。

【0019】ユーザ識別情報が入力されたならば、次に、そのユーザ識別情報と記憶装置210に記憶してある当該端末装置200の機器識別情報とを含むダウンロード要求を、通信インタフェース216によりサーバ3

00に転送して(ステップS204)、サーバからの応答待ちとなる(ステップS205)。

【0020】サーバ300では、この端末装置200からのダウンロード要求を受けると(ステップS301)、まずユーザ識別情報の有無を確認し(ステップS302)、有れば、それがユーザテーブルに登録されたいずれかのユーザ情報に合致するかどうか判別する(ステップS303)。そして、登録されたユーザ情報であれば、機器識別情報に基づいて要求のあった端末装置200を特定し、その端末装置200に対して許可信号を転送する(ステップS304)。

【0021】端末装置200では、通信インタフェース216を介してサーバ300から応答を受けたならば、それが上記許可信号であるかどうか判断する(ステップS206)。許可信号であれば、次の処理に進むが、許可信号でない場合には、この初期ダウンロード処理を終える。一方、許可信号を受けた場合には、次に、データファイルの転送の有無を判別する(ステップS207)。

【0022】即ち、サーバ300は、許可信号転送後、ユーザテーブルの当該ユーザ対応のダウンロード設定の有無フラグを参照して、ダウンロード設定がなされているかどうか判断する(ステップS305)。そして、ダウンロード設定がなされていない場合は、このダウンロード要求に応じた処理を終了する。これに対して、ダウンロード設定がなされている場合には、ユーザテーブルの当該ユーザ対応の最近使用したデータファイル情報に従って、ユーザ管理ファイルの当該ユーザについての管理ファイルエリアから最近使用したデータファイルを読み出して(ステップS306)、要求のあった端末装置200に対して転送する(ステップS307)。

【0023】而して、端末装置200側では、データファイルの転送が無ければこの初期ダウンロード処理を終えるが、有ったならば、その転送されてきたデータファイルを全て記憶装置210に保存する(ステップS208)。その後、それらの保存したデータファイルを使用するのに必要な対応アプリケーションが記憶装置210に記憶されているかどうか判断する(ステップS209)。そして対応アプリケーションが有る場合にはこの初期ダウンロード処理を終える。これに対して、対応アプリケーションが無い場合には、通信インタフェース216を介してサーバ300に対応アプリケーションファイルのダウンロードを要求し(ステップS210)、転送待ちとなる(ステップS211)。

【0024】サーバ300は、データファイルの転送終了後、当該端末装置200からのアプリケーション転送要求の有無を判別し(ステップS308)、無ければこのダウンロード要求に応じた処理を終了するが、有った場合には、その要求アプリケーションのファイルを読み出して(ステップS309)、要求のあった端末装置2

00に対して転送する(ステップS310)。そして、このダウンロード要求に応じた処理を終了する。

【0025】端末装置200では、この転送されてきた対応アプリケーションファイルを受けると、それを記憶装置210に保存する。(ステップS213)。そして、さらに別のデータファイルに対応するアプリケーションの転送の必要があるかどうか判断し(ステップS214)、必要があるときには上記ステップS210にもどり、必要がなければこの初期ダウンロード処理を終える。

【0026】以上のように、ネットワーク100においてサーバ300とネットワーク端末装置200とが連結されるネットワークシステムにおいて、ネットワーク端末装置200の立ち上げ起動時にユーザ固有の識別情報によるダウンロード要求を上記サーバ300に対して伝達し、そのサーバ300においてはそのサーバに保存されている上記識別のユーザ対応の各種ファイルのうち予め指定されていた指定ファイルを選択し、上記要求のあったネットワーク端末装置200に対してダウンロードするようにしているので、ユーザにあっては必要ファイルをサーバ300から毎回ダウンロードするといった手間が一切不要になる。

【0027】また、データファイルをダウンロードする際は、最近使ったデータファイルが自動的に選定されてダウンロードされるので、どのデータファイルをダウンロードするかをユーザが設定するといった作業が不要になる。

【0028】なお、ユーザテーブルにユーザが最近使用したデータファイルを特定するための情報を保存する代わりに、ユーザが最近使用したアプリケーションを特定するための情報を保存するようにしても良い。

【0029】これにより、アプリケーションをダウンロードする際は、最近使ったアプリケーションが自動的に選定されてダウンロードされるので、どのアプリケーションファイルをダウンロードするかをユーザが設定するといった作業が不要になる。

【0030】次に、本発明の第2の実施の形態を説明する。図4の(A)は本発明の第2の実施の形態のネットワークシステムの構成を示す図で、上記第1の実施の形態と同様に、ネットワーク100を介して、複数のネットワーク端末装置200がホスト装置としてのサーバ300に連結されている。これら端末装置200及びサーバ300の構成も上記第1の実施の形態と同様である。但し、本実施の形態に於いては、端末装置200は、その記憶装置にユーザ識別情報、機器識別情報、時間帯テーブルを記憶している。また、計時を行うと共に、予め設定された時刻に当該端末装置200を起動させるためのタイマを有している。サーバ300は、その記憶装置にユーザ別テーブル、データファイル、アプリケーションファイルを記憶している。

【0031】図4の(B)は、サーバ300に構成されたユーザ別テーブルを示す図で、ユーザ識別情報に対応させて初期ダウンロードを設定されたデータファイル及びアプリケーションを特定するための情報が記憶されている。なお、このユーザ別テーブルは、端末装置200側に構成しても良い。

【0032】また、図4の(C)は、端末装置200に構成された時間帯テーブルを示す図で、それぞれユーザが任意に設定したダウンロードを行うべき時刻とダウンロードすべきデータファイル及びアプリケーションを特定するための情報を記憶すると共に、そのときに削除すべきアプリケーションを特定するための情報を記憶している。

【0033】以下、このような構成における動作を説明する。図5は、タイマ起動による端末装置200の動作フローチャートである。即ち、予め設定された所定時間になると、OSが起動されて(ステップS221)、記憶装置に記憶されているユーザ識別情報及び機器識別情報を読み出して(ステップS222)、初期起動ダウンロードであることを示す情報とそれら読み出した情報を含むダウンロード要求をサーバ300に転送する(ステップS223)。

【0034】図6は、サーバ300の動作フローチャートであり、端末装置200からのダウンロード要求を受けると(ステップS321)、まずユーザ識別情報の有無を確認し(ステップS322)、有れば、そのダウンロード要求が初期起動ダウンロード時のものであるかどうか判別する(ステップS323)。そして、初期起動ダウンロード時のダウンロード要求であれば、ユーザ別テーブルの当該ユーザ識別情報に対応する初期ダウンロード設定のデータファイル情報に従ってデータファイルを記憶装置より読み出して(ステップS324)、機器識別情報に基づいて要求のあった端末装置200を特定し、その端末装置200に対してその読み出したデータファイルを転送する(ステップS325)。

【0035】端末装置200は、所定時間、データファイルの転送を待っており、その所定時間内にデータファイル転送が無い場合には(ステップS224)、OS終了動作を行って(ステップS225)、処理を終了する。一方、所定時間内にデータファイル転送を受けると(ステップS224)、その転送ファイルを記憶装置に保存する(ステップS225)。

【0036】また、サーバ300は、データファイル転送後、同様に、ユーザ別テーブルの当該ユーザ識別情報に対応する初期ダウンロード設定のアプリケーション情報に従ってアプリケーションファイルを記憶装置より読み出し(ステップS326)、要求のあった端末装置200に転送して(ステップS327)、処理を終了する。

【0037】端末装置200は、データファイル保存

後、所定時間、アプリケーションファイルの転送を待っており、その所定時間内にアプリケーションファイル転送が無い場合には（ステップS228）、上記ステップS225に進むが、所定時間内にアプリケーションファイル転送を受けると、その転送アプリケーションファイルを記憶装置に保存する（ステップS229）。その後、上記ステップS225に進んで、OS終了動作を行い当該処理を終了する。

【0038】次に、時間帯テーブルにダウンロード時刻として設定した時間になると、端末装置200のコンピュータ本体に割り込みがかかり、図7に示すような処理が実行される。

【0039】即ち、まず、記憶装置に記憶されているユーザ識別情報及び機器識別情報を読み出し（ステップS231）、さらに、時間帯テーブルより当該時刻に対応するダウンロードすべきデータファイル及びアプリケーションを示す情報を読み出す（ステップS232）。そして、時間帯別ダウンロードであることを示す情報とそれら読み出した情報を含むダウンロード要求をサーバ300に転送する（ステップS233）。

【0040】サーバ300は、上記ステップS233において初期起動ダウンロード時のダウンロード要求でないと判断した場合には、さらに、受信したダウンロード要求が時間帯別ダウンロード要求であるかどうか判別する（ステップS328）。そして、時間帯別ダウンロード要求でない場合には処理を終了するが、時間帯別ダウンロード要求である場合には、要求されたデータファイルを記憶装置より読み出して（ステップS329）、要求のあった端末装置200に対してを転送する（ステップS330）。

【0041】端末装置200は、所定時間、データファイルの転送を待っており、その所定時間内にデータファイル転送が無い場合には（ステップS234）、当該処理を終了するが、所定時間内にデータファイル転送を受けると、その転送ファイルを記憶装置のデータエリアに保存する（ステップS235）。

【0042】また、サーバ300は、データファイル転送後、要求のあったアプリケーションファイルを記憶装置より読み出すと共に、上記第1の実施の形態と同様にしてそのアプリケーションに対応する最近使用したデータファイルを読み出す（ステップS331）。そして、要求のあった端末装置200に読み出したアプリケーションファイル及びデータファイルを転送して（ステップS332、S333）、当該処理を終了する。

【0043】端末装置200は、データファイル保存後、所定時間、アプリケーションファイルの転送を待っており、その所定時間内にアプリケーションファイル転送が無い場合には（ステップS236）、当該処理を終了するが、所定時間内にアプリケーションファイル転送を受けると、時間帯テーブルの削除アプリケーション情

報によって示されるアプリケーションを削除することで記憶装置に空き容量を確保してから（ステップS237）、その転送アプリケーションファイルを保存する（ステップS238）。さらに、それに続けて転送されてくる当該アプリケーションに対応する最近使用したデータファイルを記憶装置に保存して（ステップS239）、処理を終了する。

【0044】以上のように、タイマ起動により予め設定されていたデータファイルあるいはアプリケーションを自動的にダウンロードするようにしたので、ユーザが端末装置200を実際に起動する時点では、必要とするデータファイル、アプリケーションが既にダウンロードされている状態になり、機器起動後に直ちに処理を行うことができる。

【0045】また、ダウンロード対象となるデータファイル／アプリケーションを時間帯に応じて設定しておいたので、その時間帯に応じて必要とするデータファイルあるいはアプリケーションのみを自動的にダウンロードすることができ（例えば午前中は不要であるが午後から所定のアプリケーションを使用したい場合がある）、必要とするデータファイルあるいはアプリケーションを必要とする時間帯で確実に使用することができる。

【0046】さらに、アプリケーションを自動的にダウンロードする際は、そのアプリケーションに対応して最近使ったデータファイルについても自動的にダウンロードするようにしたので、データファイルに対するアクセスも直ちに可能となる。

【0047】以上実施の形態に基づいて本発明を説明したが、本発明は上述した実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨の範囲内で種々の変形や応用が可能なのは勿論である。

【0048】例えば、上記第2の実施の形態では、タイマ起動を端末装置200より行なうようにしたが、サーバ300側においてタイマを監視し、その起動時刻になったらサーバ300からネットワーク100を介し端末装置200の電源を入れて起動させるようにしても良い。

【0049】また上記第2の実施の形態では、時間帯テーブルにダウンロード時刻が設定されており、その設定時刻になった段階で図7に示す処理が自動的に実行されるようにしたが、このようなダウンロード時刻を一義的に決めるのではなく、所望する時刻にダウンロード要求を出せるようにし、その要求の出された時刻がどの時間帯に属しているのかを判別することで、その時間帯に対して設定されていたファイル指定情報により該当ファイルを読み出してサーバ300に送信するようにしても良い。

【0050】また上記時間帯テーブルは端末装置200側に設けたが、サーバ300側に設け、ダウンロード時刻になった場合、あるいは端末装置200から要求があ

った場合に、その時刻に対応して設定されていたファイル指定情報により該当ファイルを読み出してそのファイルを端末装置200に対して送信するようにしても良い。

【0051】

【発明の効果】請求項1あるいは請求項9の発明によれば、ホスト装置とは通信回線を介したネットワーク環境で動作するネットワーク端末装置において、ユーザー識別情報をホスト装置に通知し、そのホスト装置側において上記ユーザー識別情報で抽出されるファイルを通信用回線を介して自動的に受信して記憶するようにしたので、ユーザーにあってはそのユーザーにとって必要なファイルを直ちに手に入れて作業することができる。

【0052】請求項2の発明によれば、当該ネットワーク端末装置の立ち上げ起動時に上記通知が上記ホスト装置に対して自動的に行われるので、ユーザーにあってはホスト装置からのダウンロードを意識する必要がなくなる。

【0053】請求項3の発明によれば、ユーザーに対応する多数のファイルの中からより厳選されたファイルのみを自動的に取得して作業することができる。請求項4の発明によれば、ネットワーク端末装置をタイマー起動により自動的に起動動作されて必要ファイルをホスト装置から自動受信して記憶するようにしたので、そのタイマー起動時刻をユーザーが実際に作用する時間の前に設定しておけば、ユーザーが端末装置を起動させて動作するときは既に必要ファイルが記憶保存されている状態となるものであり、作業を直ちにこなうことができる。

【0054】請求項5の発明によれば、ユーザーに対応する多数のファイルの中からより厳選されたファイルのみを自動的に取得して作業することができる。請求項6あるいは請求項10の発明によれば、ホスト装置側に保存される各種ファイルの中から送信対象となるファイルを抽出する際は、現在時刻を基準にしてその時間帯に対応したファイルを抽出して、その抽出されたファイルを受信して記憶するようにしたので、時間帯に応じて必要となるファイルのみを保存してそのファイルを対象にした作業を行なうことができる。

【0055】請求項7の発明によれば、時間帯別記憶手

段を用意したので、その設定、設定変更を容易に行なえる。請求項8の発明によれば、各時間帯で不要となるファイルを特定するためのファイル指定情報を記憶するようにしたので、不要となったファイルを自動的に削除することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(A)は本発明の第1の実施の形態のブロック構成図、(B)はネットワーク端末装置のブロック構成図、(C)はユーザテーブルの構成を示す図であり、(D)はユーザ別管理ファイルの構成を示す図である。

【図2】第1の実施の形態におけるネットワーク端末装置の動作フローチャートを示す図である。

【図3】第1の実施の形態におけるホスト装置としてのサーバの動作フローチャートを示す図である。

【図4】(A)は本発明の第2の実施の形態のブロック構成図、(B)はユーザ別テーブルの構成を示す図であり、(C)は時間帯テーブルの構成を示す図である。

【図5】第2の実施の形態におけるネットワーク端末装置のタイマ起動時の動作フローチャートを示す図である。

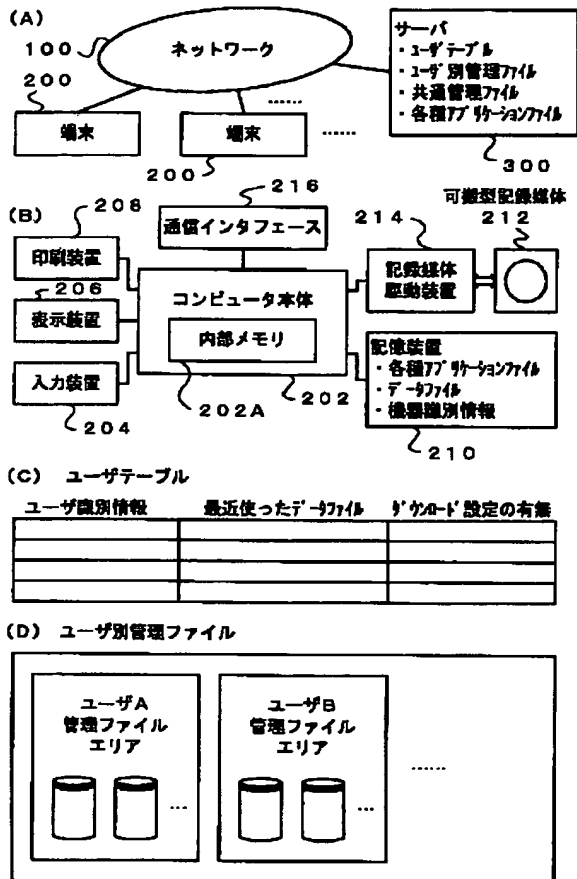
【図6】第2の実施の形態におけるホスト装置としてのサーバの動作フローチャートを示す図である。

【図7】第2の実施の形態におけるネットワーク端末装置の時間帯別ダウンロード要求処理の動作フローチャートを示す図である。

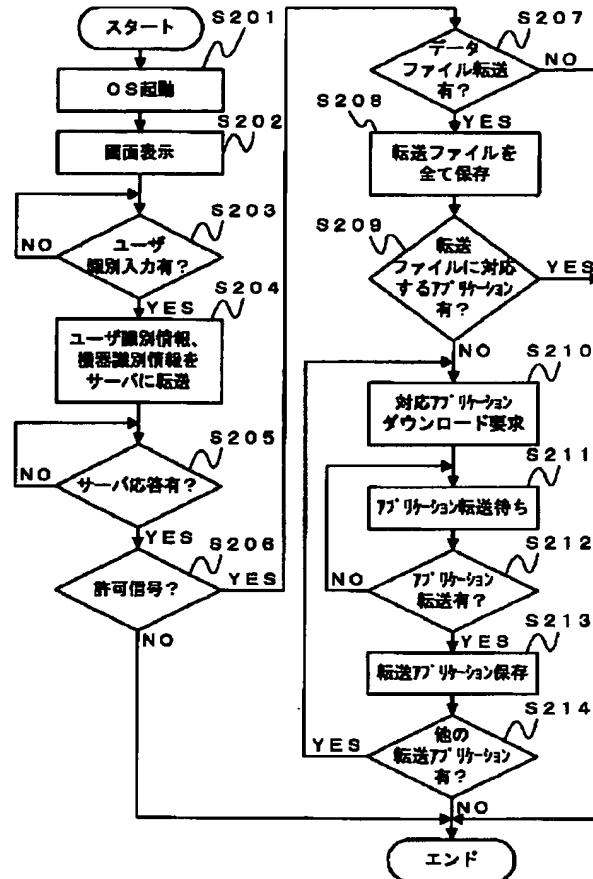
【符号の説明】

100 ネットワーク
200 ネットワーク端末装置
202 コンピュータ本体
202A 内部メモリ
204 入力装置
206 表示装置
208 印刷装置
210 記憶装置
212 可搬型記録媒体
214 記録媒体駆動装置
216 通信インタフェース
300 サーバ

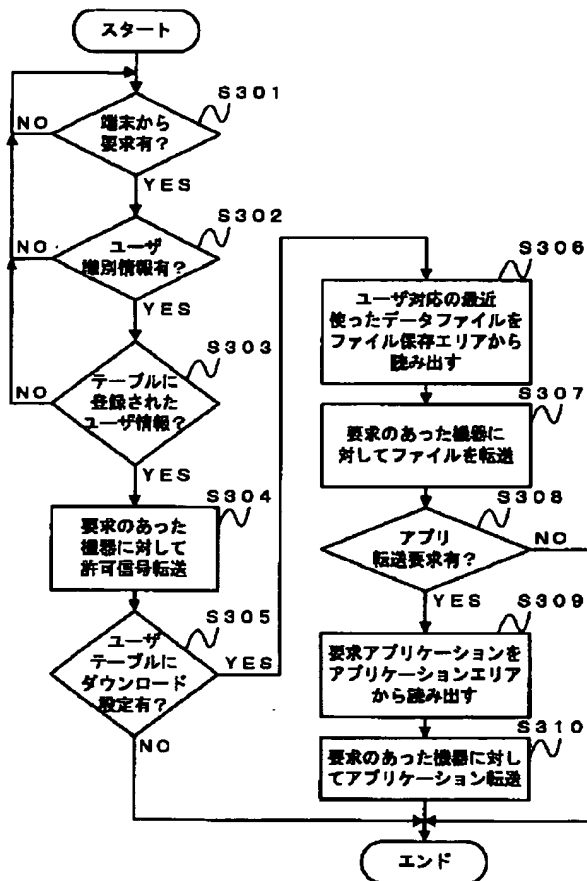
【図1】



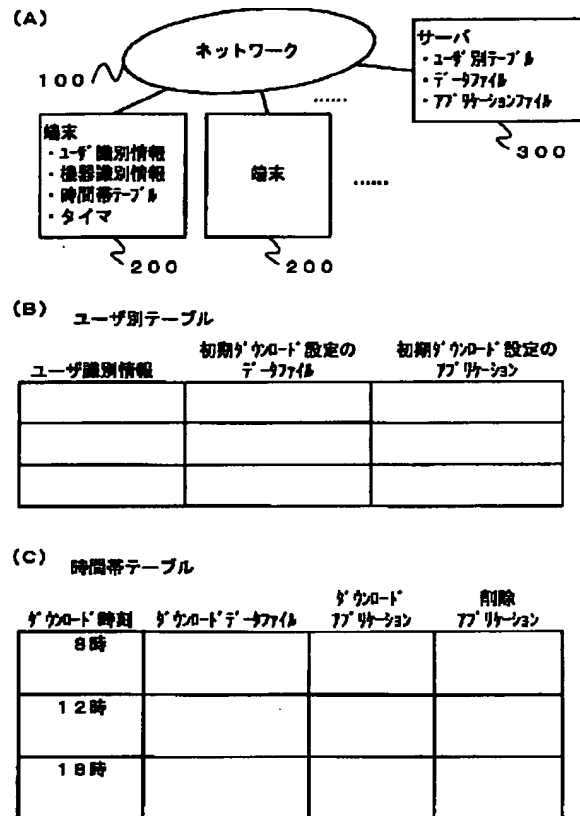
【図2】



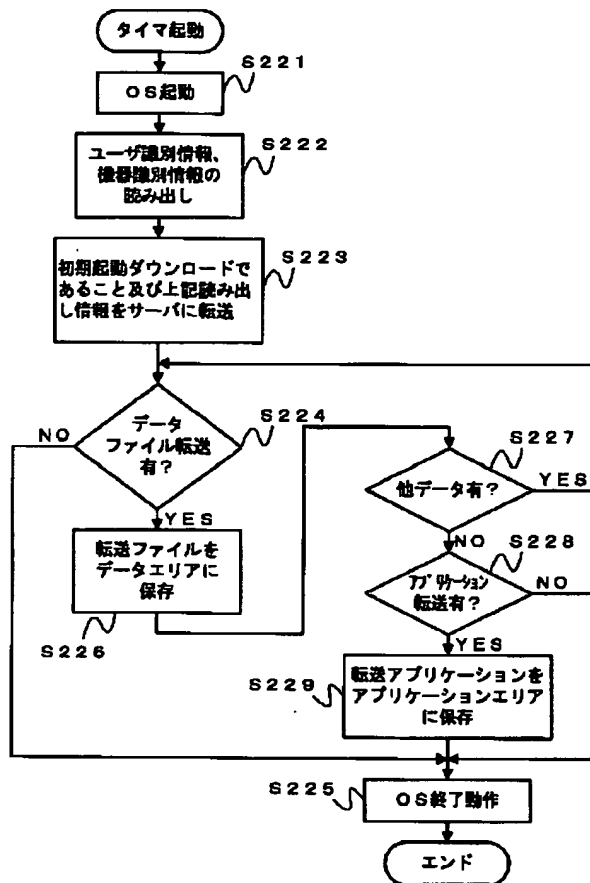
【図3】



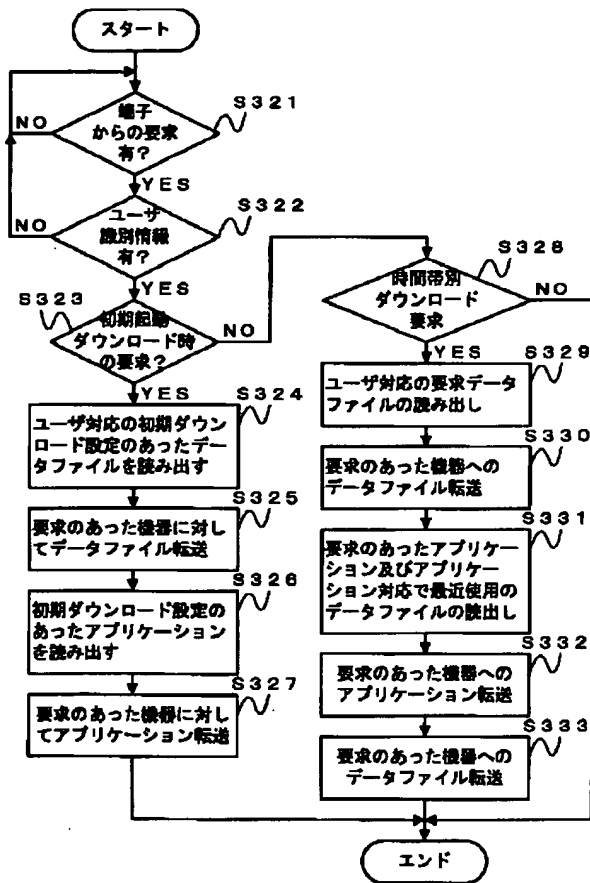
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

